

会議名称	第 10 回千代田区都市計画審議会都市計画マスタープラン改定検討部会
日 時	令和 2 年 12 月 21 日（月）13:00～14 : 30
場 所	千代田会館 10 階研修室
会議次第	1. 開会 2. 議題 (1) 千代田区都市計画マスタープラン『答申案』（案）について 3. その他 4. 閉会

<議事概要>

■傍聴者 1 名入場

■千代田区都市計画マスタープラン『答申案』（案）について

参考資料 3、資料 1～4、参考資料 4 について事務局にて説明。

※池邊部会長欠席、小澤副部会長がリモート参加のため、事務局にて進行。

【答申案（案）について】

- 都市計画マスタープラン改定された後、どのように活かされて、どのように都市計画行政の実務と
なっていくか、見える形にしていくことが必要である。意見として改定検討部会の各委員に聞いて
おくことが必要ではないか。（小澤副部会長）
⇒第 3 章や第 5 章において、川沿いのまちづくりガイドライン、地域エネルギーデザイン、エリアマネ
ジメント推進ガイドラインなどの策定に向けた検討の方向性をちりばめている。アクションプラン、
実施計画などには落とし込んでいないが、今後、確認していきたい。他の委員のご意見も伺いた
い。（事務局）
- 千代田区の骨格構造（34 p）について、神田警察通り沿道では、食・賑わいゾーン、文化・
交流ゾーン、歴史・学術ゾーンで、それぞれのまちづくりが検討されている。神田駿河台から考え
ると、御茶ノ水駅、御茶ノ水仲通りから文化・交流ゾーンの核となる電機大跡地開発へと続く
軸も考えられるのではないか。（中村（英）委員）
⇒意見聴取でもエリア回遊軸としての位置づけるご意見をいただいた。第 2 章 戦略的先導地域
（40 p）において、「東西南北の回遊性を向上させる」として追記している。また、第 4 章 万
世橋地域（172 p）の方針図において「御茶ノ水仲通り」と表記している。靖国通りより北側
は、御茶ノ水駅の全面改良や拠点としての位置づけ、神保町・小川町との連携、大学等の機

- 文化、芸術、アート、クリエイティブなど、それぞれ使い分けられていると思うが、文化、アートとして何を捉えているか具体的に見えてこない。千代田区が管理運営している文化施設がどこにあるか。自分たちが住んでいるエリアで区が運営している文化施設、芸術に対する取り組みが享受できる施設などの具体性が見えない。区民が集まって活動できるような場所を含めて、区が行っていること、民間が行っていることの線引きが曖昧になっている。歴史的な遺構なのか、区民が活動して使える場所なのか、どこかに欲しい。将来、これだけの芸術・文化の施設が増える、まちの特性からクリエイティブな活動の場所が今後必要である、などの具体性が欲しい。（中村（政）委員）

⇒ひとつは、文化部門が考えていく官民の施設・事業の役割分担とエリアのプロットについて、文化芸術プランのなかで議論されている。アートスクエアとアーツ千代田 3331 でほぼ同じだが、概念を切り分けているなど難しい状況がある。施設をプロットすることについては、都市計画・まちづくりと公共施設の適正配置の意思決定の中で難しい部分があり、都市計画部門だけで決められないところもある。大きな宿題としつつ、重要なご指摘として受け止めたい。

⇒神保町や小川町では商業文化、産業集積などが文化になってくる。大手町・丸の内・有楽町であれば、ビジネスとパブリックアートなど、エリア的な整理をしたい。どういうアートとして展開して文化的なまちに展開していくのか、うまく整理できないところについて、委員に補助線のようなコラムを寄稿していただけたら、と考えている。

⇒神保町、秋葉原、万世橋、和泉橋、神田、丸の内、永田町などのエリア特性に応じた展開はイメージしているところであるが、それがどういう効果を持ってくるか。丸の内はアートが都市観光の重要な要素かも知れないし、神保町はインバウンドより国内のひとが対象となるなど、エリア感のようなものを整理できるのではないかと考えている。

- 神保町の本屋街など、誰しも本の集積の密度そのもので文化を感じる。将来消えていく可能性を含めて、どういう課題があり、文化を残すために何が必要なのかが読み取りにくい。大手町・丸の内・有楽町では SGDs をイベントでも強調しているものができていて良い方向だが、その流れが神田まで拡大し、そのまま神田の文化の関係を高層化していくビルの中で捉えてしまってもよいか、と感じる。高層化していく中で、低層部に文化をつくるといってもやらないことが多い。都市計画マスタープランの中で、実際に取り組んだ結果をどう評価していくのかの指針が抜けているのではないか。文化を実際につくっていくためには、丁寧に蓄積していかないとならない。（中村（政）委員）

⇒コラムを追加する方向で、事務局からのタタキ台を基にして相談させていただきたい。千代田区における文化は、古いもの、今動いているもの、新しいもの、個性豊かな界隈の中で展開するものについて、まちづくりの中でも整理していくことが千代田区の強みになると考えている。（事務局）

- 序章（2p）に「持続可能な回復」とあるが、それ以上に、今回、感染症のショックによって、価値観の変化が起こっている。これまで思いもよらなかった変化でなく、くすぶっていたものが10年進んだということではないか。感染症拡大からどう回復するかではなく、時代が急速に進んで価値観が変わったことを示すべきではないか。具体的には、オープンスペース、街路、水辺、空地をどう考えていくのかがある。また、床を積む価値からの脱却について、みんなが思っていたけれども、なかなかそうならなかったが、オフィスのあり方の議論が急速に大きくなってきた。床を積む価値観の脱却は、まちの個性をどう考えるかに行きつく。新しい時代のマスタープランであることを改定の

- 背景として書いた方がよい。(伊藤委員)
- 住宅については、量から質と記載されているが、本来は、いろいろな側面から量から質への転換が表れてくる。単なる回復だけではなく、新しい価値観が生まれつつあることを書いていただくとよい。それに対応して、オープンスペースやまちの個性、文化に明示的に反映されるとよい。(伊藤委員)
 - ⇒価値観の変化については、記載を検討したい。量から質、地域別、時間の考え方などから点検作業を行いたい。(事務局)
 - ⇒サスティナブルリカバリーについては、立ち戻るのではなく、新たな価値観に対応して、新たな方向性を切り開くイメージがある。東日本大震災で言われた「創造的復興」のような意味合いも含んでいる。(事務局)
 - 第4章 麹町・番町地域「cエリア回遊軸」(128p)について、グランドレベルのまちづくりについて記述するところであるが、中高層階に住宅を誘導するという機能誘導の記述があることに違和感がある。(伊藤委員)
 - ⇒中高層階住居専用地区が指定されており、現行の都市計画マスタープランの記載を引用している。ご指摘のとおり、グランドレベルの視点からすると、記載しない方向で検討したい。神田地域のも同様の地区が指定されているが、他地域でも記載がないため削除する方向で作業したい。(事務局)
 - 用語解説について、千代田区の制度の説明と混在している。文化などのキーワードの解説がないと、軽視されているように見えるのではないかと。大事なところで、ここを読むと力を入れているところがある。区民にとって良いものとなるよう用語解説となるようお願いしたい。(三友委員)
 - ⇒ボリュームもあり、追記していくと読みづらくなるのはご指摘のとおりであるので、カテゴリーを前段に設けるなど検討したい。(事務局)
 - 用語解説は目次に追加したほうがよい。資料編として想定しているものは何か。(三友委員)
 - ⇒都市づくり白書を資料編として編集しながら連動させていくことを想定している。その見せ方について工夫・検討していきたい。(事務局)
 - ⇒様々な調査で時間がずれて実施されていく。都市づくり白書については、随時、調査結果がまとまった段階で、随時、継続していくスタイルとしていきたい。(事務局)
 - ⇒都市型感染症の状況を踏まえた価値観の変化、人間中心の方向感の一方で、災害対策のあり方も検討する必要がある。耐震化、耐火・防火、水害対策だけでなく、ソーシャルディスタンスのとり方、感染症予防の観点も踏まえた課題がある。(事務局)
 - 第3章 テーマ6、7について、意見聴取を受けて、コジェネレーションシステムについての追記が行われた。単にエネルギーの高効率利用だけでなく、エネルギー自立の観点で、災害時も含めてコジェネレーションシステムの普及が進んでいる。104pにも追記があるが、エネルギーの高効率利用と自立を併記した方がコジェネレーションシステムを強調する上で適当である。20pにも追記があるが、エネルギーの高効率利用と自立化を併記した方が誤解なく読み取れる。(村上委員)
 - 第3章 テーマ7(106p)について、ZEBとともに、エネルギーの面的利用について追記があるとよい。千代田区が一番進んでいる。(村上委員)
 - 第3章 テーマ7(103p)のイラストがなかなか良いものが入っている。「未来へのまなざし」

について、脱炭素にはエネルギーの高効率利用、再生エネルギーの利用などが含まれる。エネルギー利用については、コジェネレーションや在宅避難を考えると、エネルギー自立という表現に変えてもよいのではないか。(村上委員)

⇒テーマ間の連携として、ご指摘について、事務局で変更作業を進めていくなかで、ご協力いただきたい。(事務局)

⇒エネルギーの自立については、第3章 テーマ6及び7「4 他テーマとの連携」(102,111p)に記載があるが、コジェネレーションシステムの追記の状況もふまえて、記載についても検討したい。(事務局)

○ 第3章 テーマ6 (93p)以降について、イラストの「共助」、本文の「協助」との一貫性を持った方がよい。(村上委員)

⇒千代田区では「協助」としているのので、イラストを修正して統一したい。(事務局)

⇒「協助」については、企業のカも踏まえた千代田区の独自の使い方である。一般に普及していないところもあるが、あえて、国とは違う「協働」として、企業、団体、学校などの主体も含めて考えている。その確認も含めて整合性をとっていきたい。

○ 第3章 テーマ6 (93p)「歴史・文化がつながる」の生活の継続性については、生活と業務の継続性とした方がよい。(村上委員)

○ 第3章 テーマ2 (53p)のイラストも素敵である。緑と水辺をつなぐという点で、ひと目線の心地よい空間づくりがある。イラストを見ても鳥がいたり虫がいる。生態系の保全に関してコメントがあってもよい。大手町の森など生態系の保全をコンセプトにしたまちづくりも展開されている。そうしたキーワードがあってもよい。(村上委員)

⇒生物多様性については、テーマ2で記載しているところであるが、改めて確認させていただく。

(事務局)

○ご指摘をいただき、修正、文化などもう一段検討して追加するものもあるかと思う。

○用語解説についても、議会では網羅的で理解も深まるとの意見もいただいているが、整理の仕方を検討したい。議論になった言葉の定義も含めて検討したい。

○本文で言い尽くせないところ、都市づくりで動いているところ、地域特性を踏まえて明確化していくところなど、コラムなどの形で理解を深めていきたい。たたき台をご用意して、確認いただくようにご助力をお願いしたい。

○都市計画マスタープラン改定検討部会は今回が最後となる。いただいたご意見を反映して、池邊部会長に確認いただいて、1月の都市計画審議会に報告させていただく。2/8に都市計画審議会として答申をいただく。

○大きく施政運営の方針の転換が必要となった場合には、新たな方針の差分の議論をいただくことがあるかもしれない。個別にお尋ねすることがあるかもしれないのでお願いしたい。

(中村(政)委員よりご提案)

○用語解説に記載された単語は、本文に「※」などを付けるとよい。単語の解説が後ろにあることがわかると生きてくる。

○写真がインターネットに公開していく場合、クレジットが引かかる場合がある。どこからもってきたのか、撮影者など、注意する必要がある。

以上